



徳島 ラジ 殺し 事件 才商

真実を求めて三十年

渡辺倍夫

徳島ラジオ商殺し事件

2004年7月5日 初版第1刷発行

著者 渡辺倍夫

発行人 松崎義行

発行所 新風舎

〒107-0062 東京都港区南青山2-22-17

電話 03-5775-5040 (代表)

03-3746-4648 (営業)

URL <http://www.pub.co.jp>

振替 00100-4-577938

装幀 中澤裕志 (super material, inc.)

印刷・製本 株式会社アイフィス

©Masuo Watanabe, 2004 Printed in Japan

ISBN4-7974-9408-5 C0195

落丁・乱丁本は、小社営業部宛にお送りください。お取り替えいたします。

江苏工业学院图书馆

藏 書 章

新聞會文庫

徳島ラジオ商殺し事件

渡辺倍夫

本書を亡き津田騰三先生に捧げる

まえがき

瀬戸内寂聴

無償の奉仕のはてに

徳島ラジオ商殺しの名で通っていた富士茂子さんの冤罪事件は、このほど、高松高裁でようやく再審の道が開かれることに決定した。事件発生以来、実に三十年ぶりの朗報であった。

この間、渡辺倍夫氏ますおは、茂子さんの姪の夫という関係だけで、この事件に関わり、ついにその生活のほとんどを、事件解決のためにつくすはめになった。

私は婦人雑誌に頼まれ、この事件についてはじめて徳島に取材し、渡辺さんに逢った日のことを今でもありありと覚えている。当時の渡辺さんは、どこの町にもいる、ごく平凡な商人（呉服商）だった。見るからに実直そうな渡辺さんはまだ三十代で、髪も黒く多く頬も若々しかった。私もまた三十代で、髪が多く黒々としていた。渡辺さんは、その時からすでに茂子さんの無罪を強く信じていた。

決して雄弁ではない渡辺さんがたくさん資料を示しながら、とつとつと事件に

ついて説明してくれるのを聞きながら、私は渡辺さんの氣迫に次第にうたれていった。

あれからの歳月の何と長かったことか。

渡辺さんはこの事件に関わったため、商売は奥さんまかせで走り廻った。そんな渡辺さんを見て、世間は感心するどころか、むしろ、白眼視した。何の利益にもならない事件に、ただ正義のために、冤罪を無実と認めさせるために努力する渡辺さんの心の底が、世間の人々には理解できなかった。売名でやっているのだとか、何かの目的に利用するつもりだろうとか、渡辺さんにとっては心外なことばかりがあてつけがましくささやかれていた。

高松高裁の決定が出、検察側の特別抗告断念が報じられた夜、私は電話で渡辺さんにいった。

「いろいろ、口にいえない辛い想いをよう辛抱してきましたね」

そのとたん、電話の向うで、渡辺さんが、ううつと、声をもらして泣くのが聞えた。

私も一緒に泣いた。

渡辺さんの努力は全く縁の下の力仕事で、しかも報われることのないものであった。

茂子さんの遺児たちからはむしろ迷惑がられさえした。しかし渡辺さんの無私で無償の貴い努力なくしては、この事件は、ここまで闘い抜けることではなかったのだ。この事件に、再審の道が開かれたということについては、渡辺さんこそが第一の功労者である。

この本で渡辺さんは、この事件について経験したすべてを書いたという。それは当然、果さなければならぬことであった。

この事件のすべての経過について、渡辺さんほど委^{くわ}しい人はいないのだ。

今後、決して第二、第三の富士茂子を生まないためにも、渡辺さんのこの手記が、貴重な資料となり、指針となるだろうことを信じて疑わない。

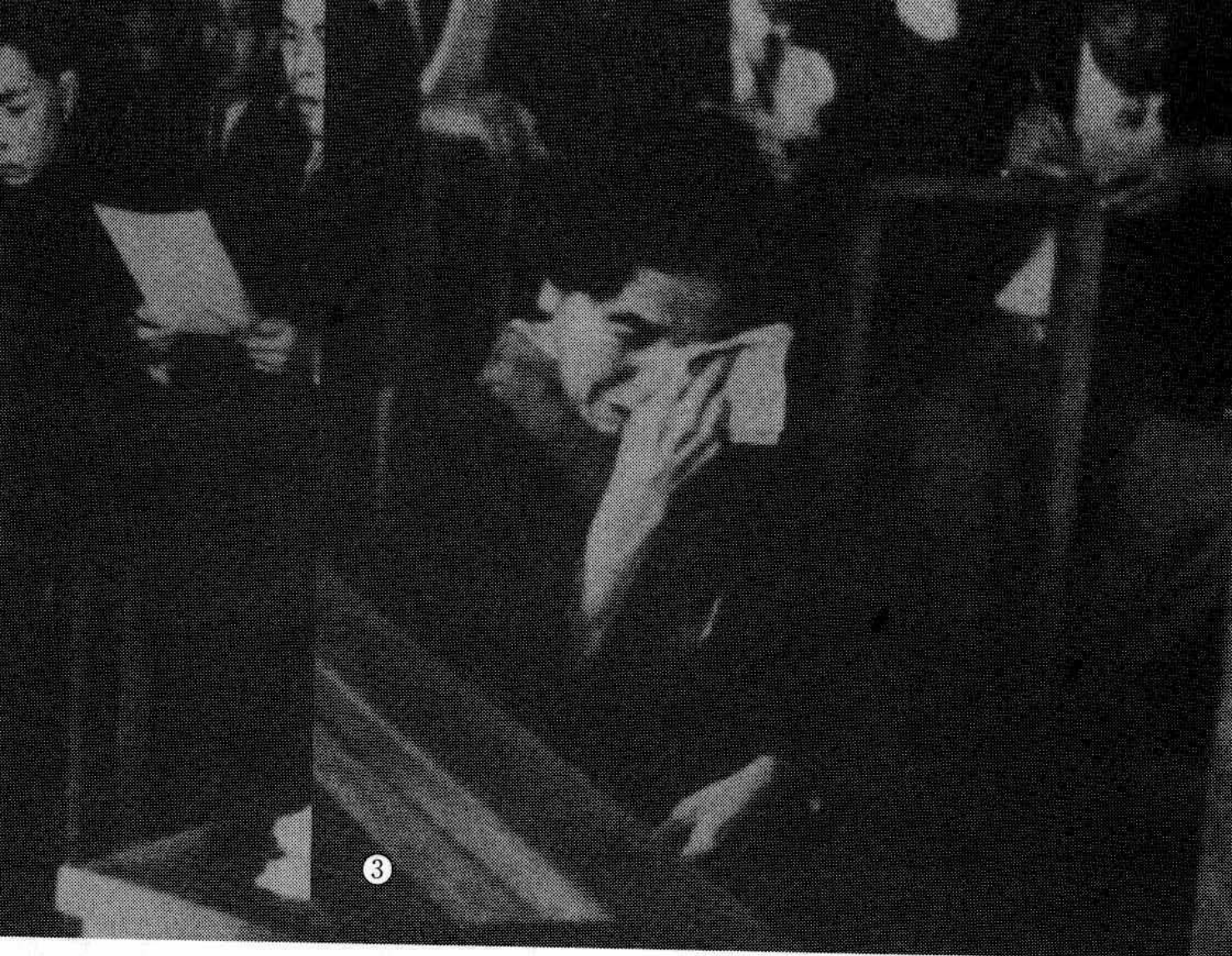
茂子さんの霊も、この書物の出現に深くうなずいていることだろう。

一九八三年



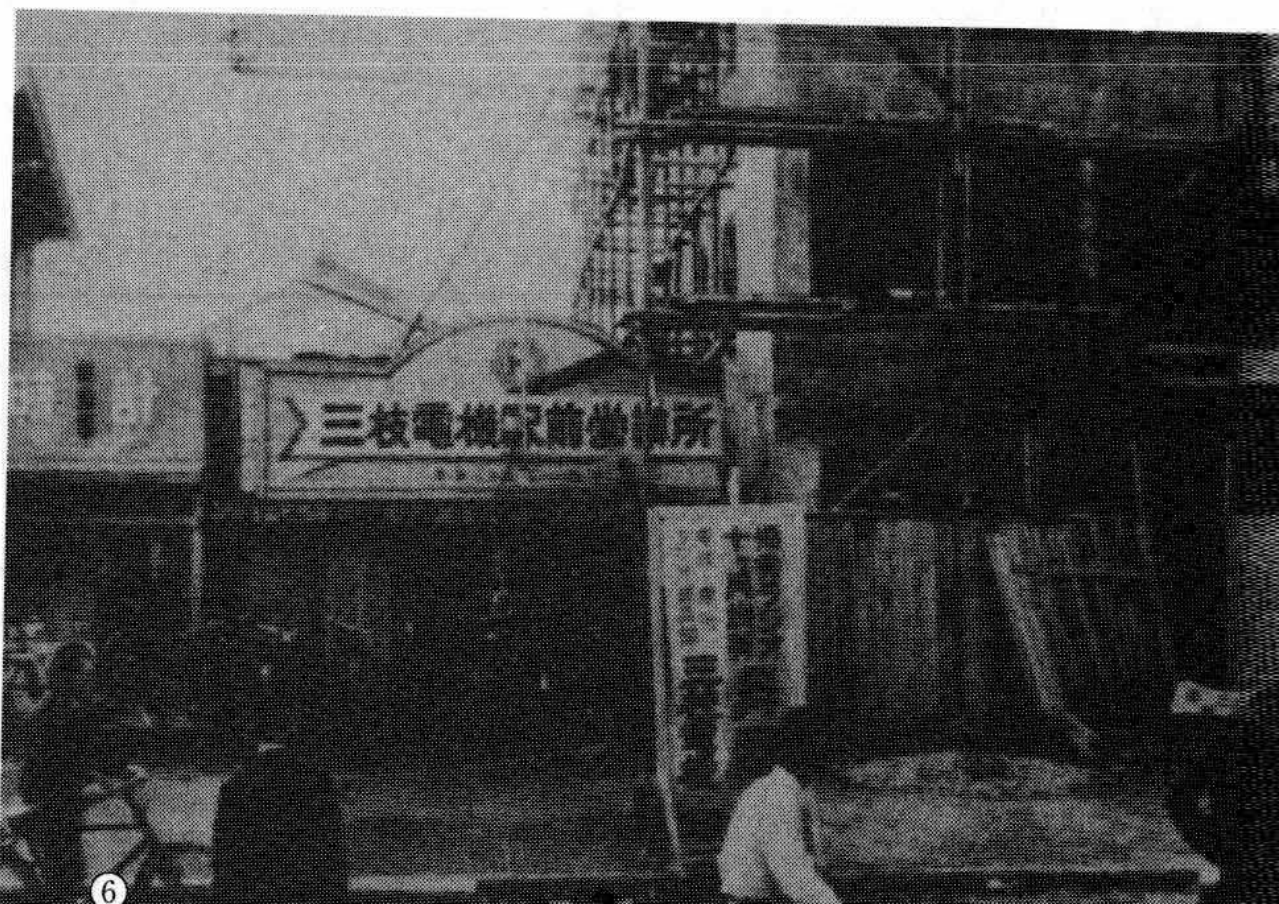




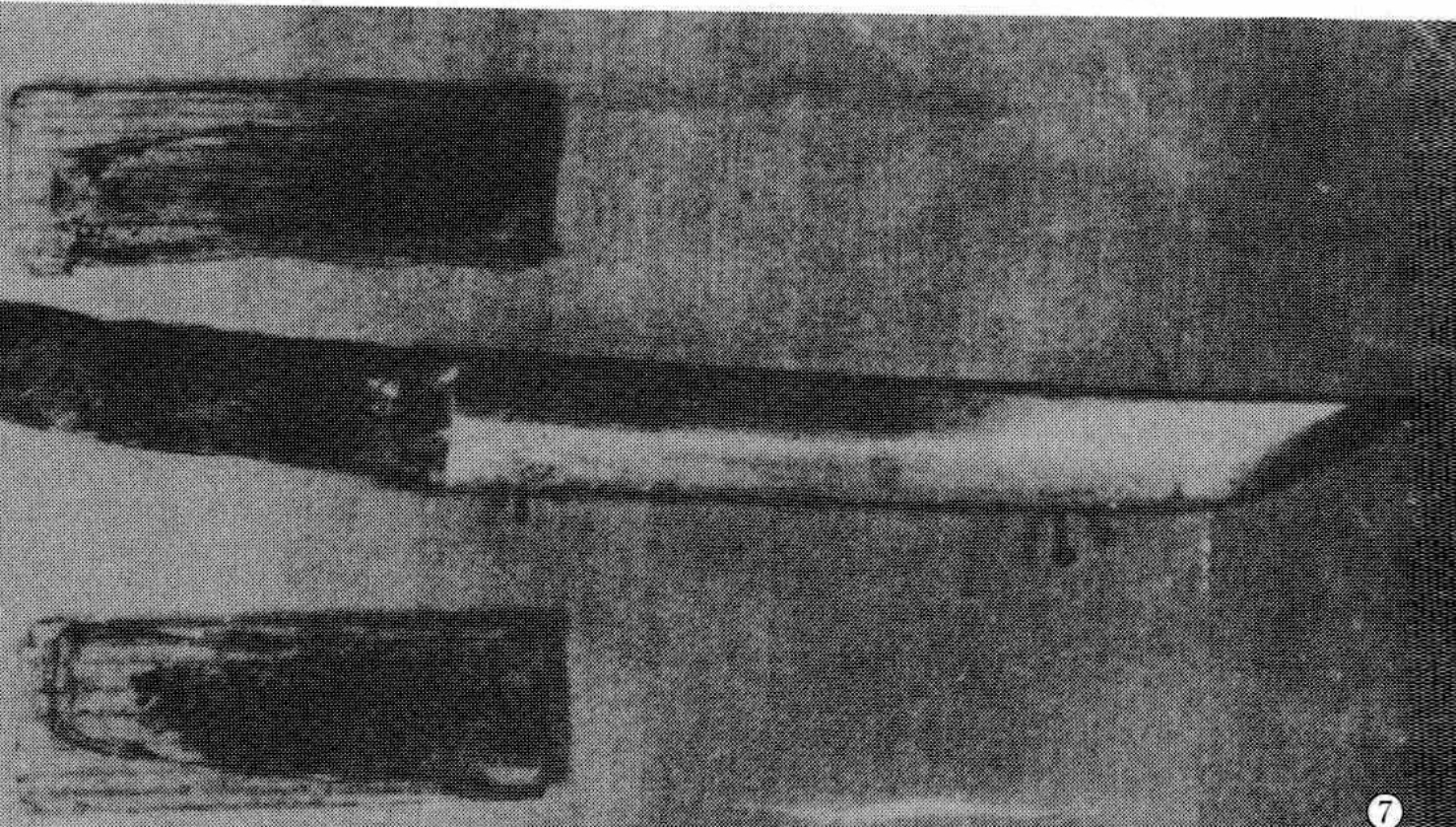


③

- ① 検察の取調べを受ける茂子（徳島地検） ②③④ 徳島地裁の法廷（一般公開）
 ⑤ 法廷を出て護送車に向かう（一般公開中） ⑥ 事件直後の現場前
 ⑦ 現場に残された七首



⑥







10



9



11



⑧仮出所当日。東京保護観察所で ⑨徳島刑務所（裁判継続中、拘置されていた）
 ⑩判決確定後収容された和歌山刑務所 ⑪病床の茂子 ⑫再審開始決定（徳島地裁）

